

ポイントは密植

道東の小豆農家は早生品種を作りこなせ

道総研 十勝農業試験場 研究部 小豆菜豆グループ
道総研 北見農業試験場 研究部 地域技術グループ

1. 成果の概要

- (1) 小豆の早生品種「きたろまん」・「ちはやひめ」では、密植することで増収と成熟期前進が図られます。
- (2) ただし、地力の高い畑では、倒伏が増加するリスクがあるため、密植すべきではありません。
- (3) 6月上旬の晩播が可能なエリアは十勝中央部のみです。

2. 成果内容

地域	播種期	品種	栽植密度	標準(密度・播種期) に対する反応	留意点
十勝 中央部	5月下旬	きたろまん	標植(16,700本/10a)の1.5倍程度までの密植(～25,100本/10a)	1.5倍密植で成熟期前進(1～2日)、増収。	地力の高いほ場では標植とする。
		ちはやひめ		1.5倍密植で成熟期前進(2～3日)、増収。	—
	6月上旬	きたろまん		収量・品質の低下は少ない。	生育量不足で減収する事例あり。初霜早い地域は晩播を避ける。
		ちはやひめ		1.5倍密植で成熟期前進。	生育量不足でやや減収する事例あり。
十勝山麓 沿海部 ・ オホーツク	5月下旬	きたろまん		1.5倍密植で成熟期前進(1日程度)、並～やや増収。	地力の高いほ場では標植とする。
		ちはやひめ		1.5倍密植で成熟期前進(1日程度)、増収。	低温条件で成熟期が「きたろまん」並に遅れる事例、外観品質が「きたろまん」より劣る事例(色浅)あり。
	晩播は行わない。晩霜を回避しながらできるだけ播種期を早め、生育期間を確保する。				

注) 十勝中央部：十勝川・利別川沿いの地域。